新名神高速道路埋蔵文化財発掘調査ニュース

鈴鹿のあしあと No.3

三重県埋蔵文化財センター
〒515 - 0325　三重県多気郡明和町竹川 503
TEL　0596 - 52 - 1732　FAX　0596 - 52 - 7035

三重県埋蔵文化財センター調査研究３課 四日市整理所
〒512 - 8064　三重県四日市市伊坂町 126 - 1
TEL　059 - 363 - 3195　FAX　059 - 363 - 3196

縄文時代後期の土器が出土しました！

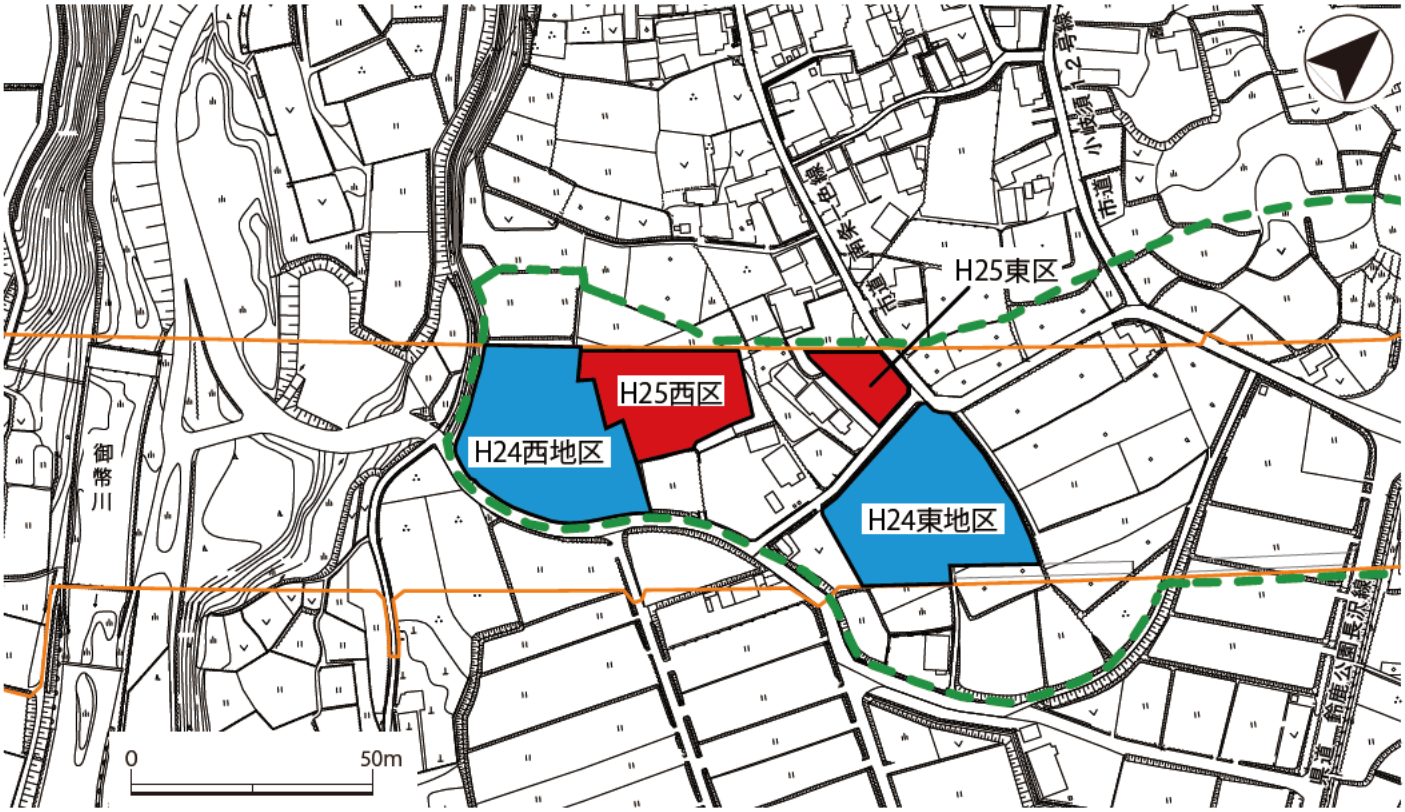
釜垣内遺跡からみた石大神・小岐須渓谷　　いにしえの人々もこうした夏の風景をながめたことでしょう。

はじめに

平成 24 年度から始まった釜垣内遺跡（鈴鹿市小岐須町字大垣内～字釜垣内）の発掘も今年度で２年目になりました。昨年度は、ムラの中心部分を発掘調査しました。今年度はその周辺にあたる部分の発掘調査を５月から行っています。田畑を潤す水を引いたと考えられる溝など、具体的なムラのくらしを明らかにする手かがりが得られつつあります。

今回の調査では、平安時代後半から鎌倉時代にかけての土器が出土しています。昨年度も出土した鎌倉時代の山茶椀がその代表的な土器です。また、珍品として縄文時代の注口土器が出土しました。

いにしえの釜垣内の人たちはどのようなくらしをしていたのでしょうか？少しのぞいてみましょう。



釜垣内遺跡の調査を行った場所　緑色が釜垣内遺跡の範囲、青色が平成 24 年度調査地、赤色が平成 25 年度調査地

平成 24 年度の成果

平成 24 年度は 8,500㎡の範囲を発掘調査しました。その結果、東地区から鎌倉時代（今から 800 年前）の屋敷地とそれをめぐる溝、さらに屋敷の住人のお墓(墓 76)も見つかりました。

お墓からは当時使われた土器の山茶椀のほか、魔除けのためでしょうか、鉄製刃物や鏡が供えられていました。出土品から、このお墓には有力な人物が葬られていたと考えられます。この地を豊かな土地に変えていったリーダー的な存在の人物だったのでしょう。

山茶椀　鎌倉時代の代表的な土器です。屋敷をめぐる溝やお墓から出土しました。

見つかったお墓 76

鎌倉時代のお墓で、長さ 2 m、幅 80cm、深さ 25cm の大きさです。山茶椀を取り上げると、その下から、はさみ・毛抜きなどの鉄製刃物と鏡が出土しました。

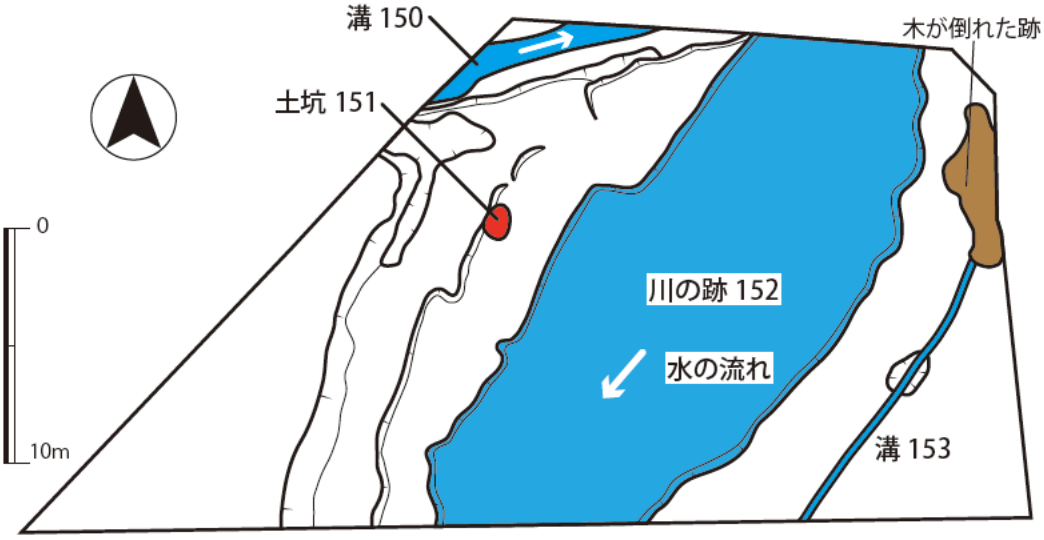
平成 25 年度の成果

①東区

東区では、平安時代から鎌倉時代の川の跡が見つかりました。この川は、大雨の時だけ水が流れていた「かれ川」だったと考えられます。

その北側では中世から近世の溝が見つかりました。御幣（おんべ）川から田畑へ水を引いていた用水路と考えられます。

平成 25 年度調査の東区　中央の白い部分が川の跡です。写真の手前から奥に流れていました。



東区の全体図　中央が川の跡、その北側に溝 150 があります。

川の跡を埋め立てることで田畑に変えるとともに、御幣川から水を引き込むことで、豊かな土地へと変えていきました。

当時の人々の苦労がしのばれます。

②西区

西区では、北側へ続く溝 154 が見つかりました。この溝は、御幣川から田畑へ水を引くための用水路だったと考えられます。山茶椀が出土していますので、鎌倉時代以降の溝と考えられます。

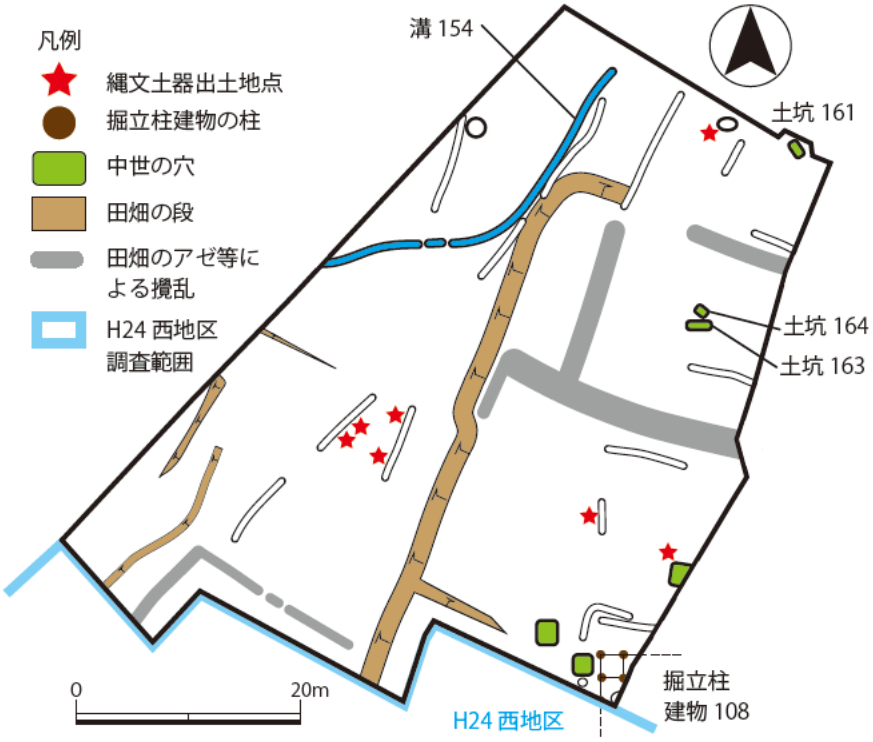
また、西区では、石をたくさん詰め込んだ穴が３つ見つかりました。このうち土坑 161 は隅丸長方形です。ぎっしり詰まった石とともに、山茶椀が１点出土しました。鎌倉時代の穴と考えられます。

土坑 163・土坑 164 も同じような形・特徴をしています。どち

土坑 161　長さ 155cm、幅 65cm、深さ 35cm で、たくさんの石が詰め込まれていました。山茶椀が出土したことから鎌倉時代の穴と考えられます。

らも中世の土器が出土しています。

このほかに、西区では縄文土器が出土しました。縄文時代後期（今から 4,000 年前）の土器です。破片ですが、縄文土器はいくつか出土しています。狩りや植物採集で生活していた縄文人にとって、この地は豊かな所だったのでしょう。



西区の全体図　緑色が中世の主な穴、赤い星印が縄文土器の破片が出土した所です。

土坑 163（右）と土坑 164（左）

土坑 163 の大きさは、長さ 210cm、幅 80cm、深さ 30cm の穴です。鎌倉時代から室町時代の土器が出土しました。

土坑 164 は長さ 135cm、幅 90cm、深さ 40cm で、鎌倉時代の山茶椀が出土しました。

縄文土器　縄文時代後期（今から 4,000 年前）の注口土器です。この他にも縄文時代晩期（今から 3,000 年前）の土器も出土しています。

まとめ

２年間の調査で、平安時代後半あるいは鎌倉時代から本格的な集落がつくられ始めたこと、有力者が関わっていたことが分かりました。また、それよりも前の時代に、人々はどこに住んでいたのか等は今後の課題となるでしょう。

出土品の整理・検討を待つ必要がありますが、文書史料ではとらえることができない小岐須町の歴史が、発掘によって明らかにされつつあるといえます。

遺跡名・所在地：釜垣内遺跡　鈴鹿市小岐須町字大垣内～字釜垣内
調査名称：釜垣内遺跡第 4 次発掘調査
原因事業：新名神高速道路建設事業
期間・面積：平成 25 年 5 月 28 日～9 月 13 日（予定）・2,940㎡
調査委託：中日本高速道路株式会社名古屋支社　四日市工事事務所
調査主体：三重県教育委員会
調査担当：三重県埋蔵文化財センター調査研究 3 課